

# 鳥取県における外国人労働者のための職場作りに関する研究

経営学部 4年 弓田 理果

本研究の目的は、職場を決める際の大きな要素である賃金水準の低い鳥取県で、外国人労働者に働いてもらうためには、賃金以外でどのようなことに配慮した職場作りを行えばよいのか、どのような職場環境が求められるのか、明らかにすることである。

そこで本研究では、先行研究や既存のデータによる現状把握を行った後に、鳥取県内の外国人労働者が求めている職場環境を知るために、実際に働いている人々や働いたことのある人々に対してヒアリング・アンケート調査を行った。調査は2019年7月23日から12月22日の期間中に行った。調査方法としては、可能な限りヒアリングで調査を行いたかったが、回答者の都合によりヒアリングの時間を確保できない場合は、筆者の知人を経由してアンケート用紙を渡して回答してもらい、後日に回収する形式を取った。幅広い国籍の外国人から回答を得るために、アンケート用紙は本学の留学生の協力を得て日本語版のほかに、英語、中国語、韓国語、ベトナム語で作成した。その上、雇用者側の意見も極めて重要であることを考え、いくつかの企業や施設に足を運んでヒアリング調査も行った。

その結果、外国人労働者が働きやすい職場作りをするために今鳥取県内の職場で特に足りないものは、職場で使う日本語を学ぶ場の確保、業務内容について丁寧に教えてくれる上司や従業員の存在、そして日本人社員が外国人社員と積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢であることがわかった。

さらに企業や施設を実際に訪れてヒアリング調査を行った際には、雇用側の意見を伺う機会も得た。私がヒアリングをした方々に共通していたことは、外国人が働きやすい職場を作るためには日本人との交流やコミュニケーションが重要であると考え、交流する機会や場を作ろうとしていることであった。外国人労働者を職場だけでなく、地域の人々と交流させることで、日本という国の文化をより深く知ったり、地域の日本人と親密な関係を築いたりすることができるように促している企業もあった。

調査を通して、外国人が働きやすい職場で使う日本語教育の機会の提供や指導等、会社側が努力しなければならないことが明らかとなったが、人手不足等を理由にそのような時間や費用を工面できない会社が多いことも事実である。

しかし、外国人と共に働く私たち一人一人が、外国人にとって魅力的な職場環境作りを行うことができるのではないかと考える。業務に関すること以外でも、母国に関する質問を試みたり、普段どのような生活を送っているのか聞いてみたり、そのような会話から築かれる職場の人間関係が、職場の魅力を作り上げる方法の1つであると考えます。

外国人労働者の日本人ともっと交流したいという意見と、雇用側へのヒアリング調査で得た好例を生かし、日本人社員または日本人の地域住民が積極的に外国人とコミュニケーションを取ることによって、外国人労働者の日本語が向上し、コミュニケーションを円滑に取れるようになる。それによって周囲の従業員も働きやすくなり、結果的には組織の生産性を上げることができるのである。

そしてそれは外国人労働者を確保するだけでなく、日本人の語学能力の向上にも役に立つと本研究が提案する。